

リチウムイオン電池使用製品による発火事故に注意！！

— 身に着ける、持ち歩く製品にも使用されています —

列車内でのモバイルバッテリーの発火事故や、スマートフォンの発火事故について、ご存じの方も多いかと思います。発火事故の原因の一つとして、製品にリチウムイオン電池が使用されていることが挙げられます。

リチウムイオン電池は、モバイルバッテリーやスマートフォンのほか、ワイヤレスイヤホン、スマートウォッチ、携帯用扇風機など日常生活で身に着けたり、持ち歩いたりする様々な製品に使用されています。
消費者庁にはこれらの、リチウムイオン電池使用製品についての発熱・発火などの事故情報が寄せられています。



◆ 事故事例

【事例 1】

自動車内でモバイルバッテリーを焼損する火災が発生。

→モバイルバッテリーに内蔵されているリチウムイオン電池セルが異常発熱し発火したものと考えられる。



←自動車内でモバイルバッテリーが発火する様子

【事例 2】

モバイルバッテリー及び周辺を焼損する火災が発生。

→使用者が膨張したモバイルバッテリーを押し込んで元に戻そうとした際に、外力が加わり、内部のリチウムイオン電池セルが内部ショートし、異常発熱して発火したものと考えられます。膨張したバッテリーに衝撃を与えたことによる事故です。



←膨張したモバイルバッテリー

(事例 1、2：独立行政法人製品評価技術基盤機構 NITE 公表資料)

◆製品を使用する際の注意ポイント

1 強い衝撃や圧力を加えないようにしましょう

製品を落としてしまったり、ポケットに入れたまま座ったりすることのないようにしましょう。



2 高温になる場所では使用・保管しないようにしましょう

炎天下の車内、直射日光の下、暖房器具の近く、かばんや布の中などの熱のこもりやすい場所などでは製品や充電器を使用・保管しないようにしましょう。

3 充電は、安全な場所で、なるべく起きている時に行いましょう

充電したまま就寝し、気が付いたら製品から発熱・発火していたなどの事故が起こっています。充電は、周囲に可燃物のない安全な場所で、なるべく起きている時、製品の様子が確認できる時間に行いましょう。



4 異常を感じたら使用を中止しましょう

熱くなっている、膨らんでいる、液漏れする、変なにおいがする、異音がするなど異常が見られた場合は、そのまま使い続けることで、発煙・発熱・発火・破裂・爆発につながる場合があります。いつもと違うことに気が付いたら直ちに使用・充電を中止しましょう。

5 発火した時はまず安全を確保し、できれば大量の水で消火しましょう

製品が発火したなどの場合、まずは離れるなどにより自身と周囲の人の身の安全を確保してください。可能であれば、消火器を使う、大量の水をかける、水をためたバケツに投入するなどして被害の拡大を防ぐことが望ましいです。

6 公共交通機関では、持ち込みルールを守りましょう

7 製品情報、リコール情報を確認しましょう

製品の欠陥による発熱・発火なども発生しています。

購入前に加え、購入後も定期的に「消費者庁リコール情報サイト」を確認するようにしましょう。また、モバイルバッテリーには「PSE マーク」が付いているかも確認しましょう。

モバイルバッテリー表示の例



消費者庁リコール情報サイト

◎廃棄方法について

充電式電池や充電式電池が取り外せない小型家電



危険ごみへ

※一般ごみなどと一緒に捨てないようにしましょう！

一般ごみと一緒に廃棄すると、ごみ収集車で圧縮されることにより、火災に至る場合があります。

南但広域行政事務組合のホームページに「ごみ分別収集計画」一覧表が掲示されています。

連絡先 南但消防本部 予防課 079-672-0119